

Bangladesh南部避難民支援で、電子カルテを実地検証

医師 中出雅治

事務管理要員 黒田美紀

ミャンマーから Bangladesh南部に流れ込んだ 60 万人を超える避難民の方々に対し、日本赤十字社は 9 月中旬の先遣隊に続いて医療チームを送り、避難民キャンプで診療を行っています。本院からもすでに 10 名以上が現地で活動しているのは他の報告でご覧のとおりです。

一方、災害等の緊急時の海外医療支援で使える電子カルテを、当院が中心に開発しており、今回国際医療救援部職員 2 名とエンジニア 1 名の計 3 名で IT・Telecom チームを作り、現地で実地試験をしてきました。

今まで災害現場などでは、紙のカルテで運用しておりデータはパソコンのエクセルなどに入力して記録として残していましたが、この新しい電子カルテシステムは、現場でローカルネットワークを作り、受付、診察室にそれぞれタブレット端末を置いて、薬局のパソコンと同期します。受付のタブレットで入力したデータは診察室のタブレット、薬局のパソコンで同時に見ることができ、診察室で入力したカルテは同じく薬局や受付でみることができます。患者さんに渡すカルテも自動的に作成し、プリンターで印刷をして一番最後に患者さんに渡します。

統計処理や薬剤の在庫管理もリアルタイムでいます。これにより、特定の疾患傾向、例えば急に下痢が増えたとかいうこともすぐにわかりますし、どんなお薬がたくさん出ているかという傾向もわかるのでお薬の購入の予測がたちます。

現地では保健省などが定めた形式にのっとして毎日診療データを提出する必要があるのですが、この作業も自動的に行います。

我々の IT・Telecom チームは 10 日ほどで帰国しましたが、その後も第 3 班がクリニックで試運転をしており、フィードバックの結果は上々で、次の出動から現場投入する予定で現在細かい調整を行っています。



巡回診療先に立てた我々のクリニック



クリニックの中



看護師さんに受付で入力してもらう



医師に試しに入力してもらう



薬局で問題点を協議中



エンジニアと種々相談中